



- ① 四季の里
- ② 下吉影小学校
- ③ 大井戸湖岸公園
- ④ 国道6号沿大曲
- ⑤ 希望ヶ丘公園
- ⑥ 園部川堤

学校・公園・街道を彩る ソメイヨシノの情景

桜やお花見と聞いて、私たちが一番最初に思い浮かべるのはソメイヨシノ（染井吉野）の風景ではないでしょうか。現在、ソメイヨシノは日本全国の桜の約8割を占めていると言われ、江戸時代末期に染井村（現在の東京都豊島区駒込付近）で発見された園芸品種で、明治時代から全国に広まりました。ソメイヨシノの学術名を命名した人が、茨城県出身の松村任三（小石川植物園初代園長）とはあまり知られていませんが、そう考えるとより身近に感じますね。

小美玉市では国道6号線沿いの大曲の桜並木に代表されるように、主に戦後に平和の象徴や緑化推進事業として、学校・公園・街道に植えられてきました。成長が早く、近年植えられたものでも見事な景観となりやすく、市内各所で毎年満開の花を楽しませてくれます。

ソメイヨシノは、天然品種のエドヒガンザクラ（江戸彼岸桜）とオオシマザクラ（大島桜）の交配によって生まれた園芸品種です。開花と同時に葉を出さない習性や、薄紅色の花は、エドヒガンザクラからの遺伝。大きく見映えのする花びらと木の成長力は、オオシマザクラからの遺伝です。ソメイヨシノは種で増やすことができないため、接ぎ木で増やします。接ぎ木で増やすと全く同じ遺伝子（クローン）のソメイヨシノになるため、桜並木全体が一斉に咲いて一斉に散るといった現象が生まれるのです。日本には桜前線という風物詩があります

が、同じ遺伝子のソメイヨシノが日本全国を埋め尽くしているからこそ起きる現象です。

関東地方では、卒業・入学シーズンにソメイヨシノが満開になることが多く、人生の節目と重なることから、切ない思い出とともに、はかない情景を私たちの心



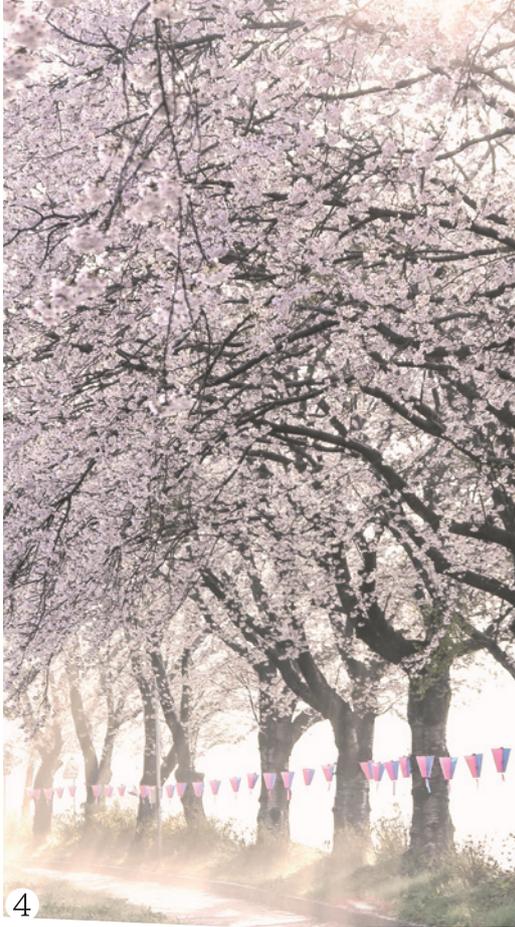


老桜の前で集合写真を撮っている昭和23年の2年生。既に巨木に成長している。

納場小学校の老桜

納場小学校の校庭脇にある老桜は、ソメイヨシノとしてはかなりの樹齢と思われます。校庭のトラックの中にも同年代のソメイヨシノが1本ありましたが、枯れたため平成元年に伐採。その幹が校内に保存されています。1877年創立の納場小学校が発行した創立100周年記念誌によると、1948年時の写真に既に巨木に成長しているソメイヨシノが掲載されていることことから、かなりの樹齢であることが推測できます。

昭和の桜博士、川上千尋さん(故人。元 太田第一高等学校長)は、「子どもたちの成長を見守り、卒業・入学シーズンに咲き、学校の歴史とともにある桜こそが、最も素晴らしい風景だ」と語ったそうです。そこには植えた人の思いや、子どもたちを見守る先生方、保護者の思いが込められています。



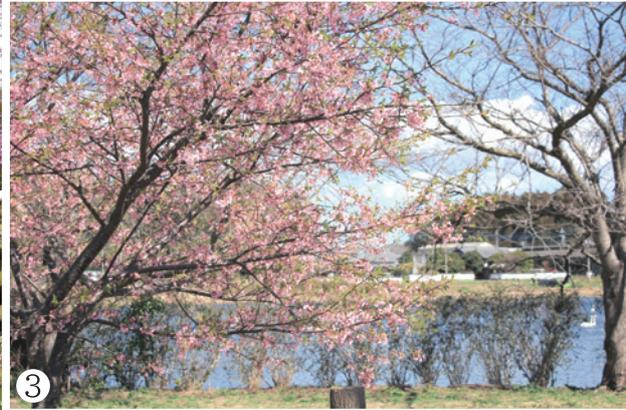
4



3



に刻んでくれています。
先人たちは、平和で明るい未来と子どもたちの成長を願って植樹したのでしょうか。園芸品種の桜は、自然には生えませんが、そこには必ず人が関わっているのです。学校・公園・街道沿いなどに植えられた桜の風景を守り未来へ引き継いでいくことは、今を生きる私たちの使命なのかもしれません。「桜が枯れたり倒れたりしたら、代継ぎ樹、後継ぎ樹を植える」ということも大切にしていきたい文化です。



① 赤身不動尊のベニシダレザクラ ② 遠州池のヨウコウ ③ 池花池のカワヅザクラ ④⑤ 産地直売所みのりのウコン

様々な園芸品種、 多様性のある植樹時代へ

桜の品種は、野生の天然品種が10種、それら天然品種の交配で生まれた園芸品種は500種とも600種とも言われています。江戸時代の大名庭園には、それぞれ自慢の園芸品種が咲き誇っていたそうで、その一部が受け継がれ、現在でも見られるヤエザクラ（八重桜）などの園芸品種となっています。

ソメイヨシノも園芸品種の一つですが、植物病害の「てんぐ巣病」に弱いため、公益財団法人日本花の会では、てんぐ巣病に強く、花の形や開花時期がソメイヨシノに近いジンダイアケボノ（神代曙）を代替え樹として推奨しています。近年では、ソメイヨシノだけではなく、様々な園芸品種を植えることが多くなってきたようです。様々な品種を植えることで、病気による影響を小さくしたり、お花見ができる期間を長くしたりするねらいがあります。

小美玉市でも、近年様々な品種が見られるようになりました。開花時期が遅いベニシダレザクラ（紅枝垂れ桜）や、ヤエザクラの代表格であるカンザン（関山）、フゲンゾウ（普賢像）などを市内各地の公園で楽しむことができます。

中でもソメイヨシノより一週間早く開花して、紅色が濃いヨウコウ（陽光）は、全国的に広がっている人気品種で、小美玉市内でも各地で見ることができます。

また、JA新ひたち野「産地直売所みのり」は、黄色い花が特徴のウコン（鬱金）、緑色のギョイコウ（御衣黄）など、珍しい桜が見られる穴場のお花見スポットです。

ひとことに桜と言っても多種多様な品種がありますので、見たことのない品種を探してみたいかがでしょうか。



Interview インタビュー

植えた人の 想いを感じる

「観桜」へ

茨城一本桜番付 勸進元 坂野秀司さん

日本の象徴でもある、富士山の御祭神はヤマザクラの女神、木花之開耶姫（コノハナノサクヤヒメ）です。江戸時代から流行した富士山信仰や富士講に密接に関わっています。

小美玉市花野井には、その地名の由来にもなっている、木花之開耶姫と巨桜の伝説が残る花の井という泉があり、その石像が今も大切にお祀りされています。

また、竹原中郷には、富士山を望む場所にヤマザクラの巨樹があったそうで、昔の人々が和歌に詠んでいます。子安信仰（子安講）の子安様も木花之開耶姫のことで、仏教では子安観音となります。安産祈願や子育ての祈念として流行しました。

小美玉市内でも各地でこうした地域信仰が受け継がれておりますが、昔からヤマザクラというのは神様と結びつく特別な木

だったことが分かります。

先日、島田市長から、市内の桜について大変興味深いお話を伺うことができました。中でも、中央高校を建設する際、元の林に生えていて、切られてもおかしくなかったヤマザクラを、現在の小美玉市役所の正門脇に移植したというお話に感激しました。いま私たちが見ている桜は、昔、誰かが心を込めて植えたものです。お墓に咲く墓守桜、お寺に咲く彼岸桜。そこには必ず人が関わっていて、植えた人の想いや願いが込められています。

桜から感じる過去、現在、未来。最も大事なことは愛でる人の存在です。観る人がいて初めて意味を持つのが里の桜です。

令和初の春。植えた人の想いを感じながら桜を愛でる、一步深い「観桜（かんおう）」を実践してみたいかがでしょうか。



各地で講演する坂野さん

坂野 秀司 Shuuji Sakano

茨城一本桜番付 勸進元
小美玉市張星出身・44歳・会社員
常磐百景 PROJECT 主宰
水戸桜川千本桜プロジェクト幹事
公益財団法人日本花の会 水戸桜川日本花の会
ひたち巨樹の会
下大津の桜保存会
発表作品『茨城一本桜番付 平成春場所』（令和元年11月）
平成30年度から県内各地で桜の講演会を開催中（依頼無料）
ウェブサイト 茨城県の桜
<https://sakuraibaraki.localinfo.jp/>